

相馬農業高校飯館校の仮設校舎は、福島市永井川の福島明成高校敷地内にあります。避難した県立高校8校の移転先は「サテライト校」と呼ばれていますが、双葉高校、浪江高校他5つのサテライト校は、今年度から休校に。また、小高商業高校・小高工業高校は合併して小高産業技術高校となり、飯館校が、現在も生徒が通う唯一のサテライト校となりました。

平成26年12月に、飯館校サテライト校で誕生した演劇部は、翌年から地区大会・県大会を突破して東北ブロック大会に進出。昨年12月には、創部3年目にして最優秀賞を獲得し、8月に開催される全国大会への出場が決まっています。

全国大会で上演する「サテライト 仮想劇—いつか、その日に、」をはじめ、作品の脚本は、顧問の西田直人先生（ペンネーム・矢野青史）の創作です。原発事故が引き起こした現実を深く見つめた作品には、サテライト校に通う生徒

たちが登場します。切なくも温かなやりとり、明かされていく本当の気持ち、現実を受け入れ未来を生きようとす一人ひとりの成長、その愛おしさが、観る人の心を揺さぶります。

現在の部員数は、上演にぎりぎりの5人で、全員が3年生。飯館校がもつアットホームな雰囲気そのままに、互いを支え合う仲間です。地区の発表会や壮行公演を控えた6月2日、南相馬市でのリハーサルを終えて、村内の本校舎に立ち寄りました。

「村を通る時は立ち寄るんです」と西田先生。部員たちは、校舎や部室棟の窓をのぞきこみ、「時が止まっているみたい」「このイメージを演技に生かしたいな」などと言葉を交わしていました。部長の菅野千那さんは、等身大の主人公をみずみずしく演じています。「大きな校舎。自然があつて、季節感があつて、ここで学べたらと想像する。5年・10年後に、ここで後輩たちに、今の私たちのことを伝えられたらいいですね」と校舎を見上げました。

全国大会は、8月1日から3日の日程で、宮城県仙台市の「イズミティ21」で行われ、飯館校演劇部は、大会2日目の8月2日に登場します。

閉鎖されている本校舎校門の前で。校舎の時計が動いていることに気づいた5人。「私たちがプレハブ校舎で頑張っているからかも知れない。まだ可能性がある学校なんだと言っているみたい」。右から、後藤滝翔（りゅうと）さん、高橋夏海さん、菅野千那さん、半澤楓さん、菅野優歩さん、副顧問の佐藤佳代子先生、顧問の西田直人先生

